



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

山本町駅

昭和47(1972)年頃  
山本町

山本町駅は、昭和11(1936)年に開通した鉄道省営バスの財田大野駅を起源とする。昭和33(1958)年、山本町の町制施行にあわせ、国鉄バス山本町駅と改称した。山本町駅には国鉄バスの他に、琴参バスなども乗り入れていた。平成8(1996)年でJRバスが、平成11(1999)年に琴参バスが廃止され、山本町駅もその役割を終える。

「思い出の1ページ」

「こんなにきれいな写真が残っているなんて。本当に懐かしいなあ」と話すのは、当時、山本町駅の向かい側で商店を営んでいた大平清子さん(87)。  
「車を持つ家庭が少ない時代で、どこへ行くにもバスを利用していました」  
唯一の公共交通機関であるバスに乘ろうと、たくさんの方が列になつて待っているのが、この写真から見えてとれます。また、今は主流となったワンマンバスですが、当時は車掌も同乗し、乗車整理を行っていました。乗降口に帽子をかぶり後ろ手を組んで立っている人が車掌です。  
「バスの車両は、時代を経て新しくなっていました。運行が始まった当初、私は女学生で観音寺市にある学校までバスで通っていました。バスといっても、当時は戦争の最中。ほろの付いたトラックで燃料には木炭を使っていました。走行中、坂道で止まることがあり、そんな時は乗客みんなでトラックを押ししました(笑)。終戦後、石炭を燃料としたバスになり、現在と同じ石油燃料のバスへと変わっていきました」

奥に写っている駅舎は、切符売り場と待合所になっていて、駅長家族の住居も兼ねていました。今ではこの駅舎も取り壊され、当時の面影はなくなりませんが、この写真を見て当時のことを語ってくれる大平さんの笑顔がとても印象的でした。

編集 後記



食

「食」について特集し、三豊の恵まれた食環境、食の魅力、作る人の思いを知ることができました。食が大切だとは誰もが感じるのですが、なかなか食卓に反映するのは難しいものですよね。私自身「野菜はたくさん食べている自信がある!」と思っていました。取材をして、その自信は見事に打ち砕かれました。「飲んで、飲んで、食べては飲んで」の生活ではダメだということも...。  
食を理解すること。その第一歩は、作る人の思いや生まれ育った三豊の恵みを知ること、家族が食卓を囲み「いただきます」と「ごちそうさま」の感謝を重ねていくことではないでしょうか。